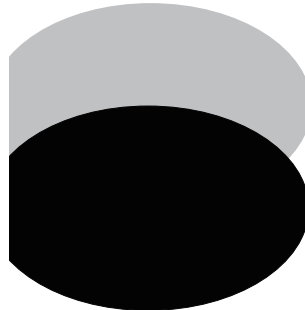


20180731

絵本学会 NEWS No.61

発行：絵本学会
発行日：2018年7月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5
刈谷市美術館内 絵本学会事務局
E-mail office@ehongakkai.com
http://www.ehongakkai.com



絵本学会

会長あいさつ
第21回 絵本学会大会開催報告
絵本学会 第21回定期総会
日本絵本研究賞についてのお知らせ
各委員会からのお知らせ
関連学会からのお知らせ
絵本学会理事会報告
お知らせ
事務局の移転にあたって
新役員一覧
編集後記

— 会長あいさつ —

「絵本は表現です。表現は生きています。だから動きます。」

絵本学会 会長 澤田 精一

絵本学会会長に就任いたしました澤田と申します。

会長としては、初めての編集経験者ではないかと思えます。福音館書店で「こどものとも」「こどものとも年少年版」「かがくのとも」などの月刊絵本を担当してきました。そこで、現代美術作家の大竹伸朗さんと『ジャリおじさん』、小沢正さんと宇野亜喜良さんと『ぼくはへいたろう』、スズキコージさんと『きゅうりさんあぶないよ』、伊藤比呂美さんと片山健さんと『なっちゃんとなつ』など、ちょっと変わった絵本を編集してきました。

絵本学会との関わりは、太田大八さんが絵本ジャーナル誌「PeeBoo」で絵本学を提唱されると、それが絵本学会をつくらうという運動になり、その準備会が日本女子大学であったとき、そこに参加していました。最古参の会員の1人です。

また、絵本学会誌「BOOKEND」の創刊準備号を手伝い、創刊号を担当いたしました。

前会長だった松本猛さんは、絵本学会は研究者、作家、編集者が集ったフォーラムのような会だといわれました。確かに太田大八さんもそのような希望をいっていました。ですが作家にしてみれば、私は研究される対象で研究する主体ではない、だから学会に入るのは遠慮したいとか。編集者は編集者でとにかく企画をあげて絵本を作らないといけないので、学会に入る余裕はないとか。そういうなかで、会員を満遍なく広げることが難しい事態が続いてきたと思えます。

では、研究者はと思うと、私の少ない論文の査読やら審査の経験から申しあげるしかないのですが、論文の質を上げていかなければいけないと思えます。日本絵本研究賞が、絵本学会20年を記念して設けられましたが、まだ道半ばという思いがいたします。なによりも応募数が少ないです。

ではこの論文の問題をどうしたらいいのでしょうか。すぐさま特効薬は考えられないのですが、まず、絵本というのは表現です。表現は変化します。昔、ある教授が絵本学会には絵本の定義がない。これはおかしいと詰問されました。私はその時、では先生のほうから絵本の定義を提出してください。そうしたら私はその定義をこえる絵本を作りますと申しあげました。絵本学

会は物理学会のような“もの”を相手にしてはしません。表現というとても人間くさい活動を相手にしています。

ですが絵本学会には他の学会にはない、その研究対象である絵本作家が少数ですが、会員でいます。編集者も学会員でいます。目の前に研究対象がいるのですから、そういう方々にアプローチできるのです。美術館、画廊等で作家の個展、グループ展がよく行われています。そこには作家がいます。そしてその作家の周りには編集者がいます。まずはこうした会場に行かれて、じかに話を引き出してはどうでしょう。

次に、これも経験から申しあげることですが、一冊の絵本ができるまでには、さまざまな過程があります。絵本の編集を進めるなかで編集者と作家の打ち合わせの内容などは重要であるにもかかわらず、なかなか表にでてきません。そればかりでなく校了になった原稿がどのように製版され、印刷されて絵本に仕上がるのか、これもまた知っておいていい絵本の知識ではないでしょうか。原画の色をなるべく忠実に仕上げようとして、印刷所の職人と話しあうなかで三色のセットインクを変えることもあるのです。このように一冊の絵本の背後には、多様な人間の活動があります。仕上がった絵本を、それを完成されたテキストとして論じるというのはひとつの方法かもしれないのですが、そればかりではないことを分かっていたいただきたいと思います。

絵本学会は20年の歴史を刻んできました。そのなかで、絵本という作品の歴史的調査、研究はずいぶんと成果をあげたのではないかと思います。このことはやはり絵本学会ができたことでの大きな成果だと思います。

そうした研究の主体である諸先生方が最近、現場を去っていかれ、では次の研究者はどこにいらっしゃるのか。今や、大きな世代交代の時期になってしまいました。ここで私の役割は、そうした若い研究者を援助することだと思います。これから具体的に提案していこうと考えています。

最後に、前期の理事会ではニュース配信の遅延、理事選挙での大きなミスがありました。この反省を踏まえて、会員の皆様とともに力をあわせて前進していこうと思っています。よろしくお願いたします。

第21回 絵本学会大会(6月2・3日)開催報告

第21回絵本学会大会実行委員会

第21回絵本学会大会は、6月2日(土)・3日(日)の2日間、大会テーマを「多様化する絵本」として札幌大谷大学短期大学部で開催された。大谷大学は、芸術学部(音楽学科・美術学科)、社会学部(社会学科)、短期大学部(保育科、保育科保育専攻)からなる特色ある大学である。現在、耐震の関係から校舎建て替え工事が行われ、使用希望の教室が使えなかったため、社会学部の校舎を借りての開催となった。ご不便をおかけした点をこの場でお詫び申し上げたい。

大会は、会員106名、一般87名、学生21名、計214名の参加であった。

大会1日目は、開会式、第2回日本絵本研究賞報告に続き、あべ弘士氏による基調講演「地球は動物がいっぱい ―絵本ができるまで」、「ふきのとう文庫」の紹介と活動説明が行われた。その後研究発表会場5室に分かれ、熱気にあふれた発表・質疑が繰り広げられた。1日目の日程は、総会、交流会と、多数の会員の参加を得て続けられた。

大会2日目は、午前中4室に分かれて研究発表が行われ、11:30から作品発表4名、午後から3会場に分かれてのラウンドテーブル、閉会式と続き、16:00にすべて終了し、大会の幕を閉じた。2日目も各研究発表会場は、入りきれないほどの参加をみたり、作品発表ではゆっくり時間をかけてすることができた。また、午後のラウンドテーブルは、A：保育現場より「保育の中で広がる絵本のいろいろ」、B：いわさきちひろと武市八十雄の絵本づくり、C：「ようこそ自然へ!絵本画家が語る実体験としての自然」の3本で開催したが、どの部屋も多くの参加者を迎え充実したものであった。特にこのラウンドテーブルのみの参加、という一般参加者が複数いたということを申し添えたい。これは、北海道ではこのような絵本作家や画家、研究者の話を聞く機会に、あまり恵まれないためと考えられる。その意味からも意義ある大会だったと考えている。

会員の皆様のご協力のもと、なれない大会運営であったが無事終了でき、安堵している。6月30日には実行委員会で反省をとりまとめ、次回の大会にいかしていただけるよう、報告したい。

文責：横田由紀子(札幌大谷大学短期大学部)

―大会実行委員会―

伊藤道明 神林真里 久保田知恵子 笹山愉香 重野正子
柴村紀代 清水貴子 杉浦篤子(実行委員長) 高倉嗣昌
高橋晶子 芳賀雅子 藤田春義 増山ゆかり 山田白百合
横田由紀子(事務局) 吉川聡子 山口恵子

*研究大会の基調講演、研究発表、ラウンドテーブルの詳細については次号「絵本学会NEWS NO.62」でご報告いたします。

絵本学会 第21回定期総会

日時：2018年6月2日(土) 17:40～18:10

場所：札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部

議長：和田直人 書記：永田桂子

出席者：105名 委任状提出者：113名(うち、印忘れ18名)

(総会出席者：57名)

1. 開会の辞

生田美秋氏より開会の辞が述べられた。

2. 議長・書記選出

議長に和田直人氏、書記に永田桂子氏が選出された。

3. 会長挨拶

松本猛会長より、第21回定期総会にあたり挨拶が述べられた。

4. 役員の変替について

第21回定期総会にて理事会役員等の交替となるにあたり、資料に基づき、その氏名が報告された。

5. 新会長挨拶

澤田精一会長が、新会長として選出されたことを受け、会長挨拶を述べた。

6. 2017年度活動報告

陶山恵事務局長より、2017年度活動報告(案)に基づき下記のような活動報告がなされ承認された。

◎第20回絵本学会の開催(松本猛会長)

2017年5月3日(水)、4日(木)

フェリス女学院大学(横浜市泉区)

テーマ：絵本と絵本学の今、そして未来へ

参加者：会員177名、非会員93名 合計270名

◎企画委員会の活動

・絵本フォーラム2017の開催

2017年12月9日(土) 日本女子大学

「ブルーノ・ムナーリ～絵本と美術教育」

登壇：岩崎 清 参加者：83名

◎紀要編集委員会の活動

・絵本学会研究紀要『絵本学』第20号の刊行

・「2017年度絵本研究参考文献目録」「2017年絵本原画展・絵本画家展リスト」の依頼

◎機関誌編集委員会の活動

・機関誌『絵本BOOKEND2017』の刊行

◎研究委員会の活動

・2017年度研究会の開催

・2017年12月2日(土) 明治学院大学白金キャンパスアートホール
「絵本とメルヘン―明治学院大学図書館所蔵『絵本とメルヘン・コレクション』をめぐって―」
登壇：巖谷國士 参加者：137名

・絵本研究助成(3件 各5万円)

申請者：丸岡慎一

研究課題：「子ども・メディア・想像力」―子どものための視覚メディアから現代の想像力を読み解く―

申請者：松田智子

研究課題：Death Educationの絵本の調査

申請者：藤重育子

研究課題：保育現場における紙とデジタル絵本を併用した読み聞かせに関する保育者への提案

◎広報委員会の活動

・『絵本学会NEWS』の発行

58号(17年7月) 59号(17年10月) 60号(18年3月)

・ウェブサイトの管理運営

・Facebook(絵本学会サロン)の運営

・メールニュース配信

◎役員改選選挙

2018年2月28日(水) 会員へ投票用紙等郵送

3月23日(金) 必着・投票締切

3月26日(月) 開票

投票有権者数 471名

投票数 241名(有効投票数 240名 無効投票数 1名)

◎日本絵本研究賞の運営活動

第2回日本絵本研究賞の募集、選考を行い、受賞者および受賞論文を決定

・第2回日本絵本研究賞

受賞者：磯部菜々

受賞論文名：絵本に描かれる「友情」イメージと友情至上主義の社会的分析

・第2回日本絵本研究賞奨励賞

受賞者：児玉 茜

受賞論文名：現代アーティスト元永定正の初期の絵本作品群

◎「フォーラム・子どもたちの未来のために」の活動(構成団体として)

・学習会及びシンポジウムに参加

第5回(2017年3月6日)、6回(7月13日)、シンポジウム「共謀罪と表現の自由」(10月6日)、7回(12月8日)、8回(2018年3月9日)

◎日本学術会議協力学術研究団体への絵本学会の登録申請申請中

◎20周年記念事業の検討

機関誌『絵本BOOKEND2017』を記念号として発行

「絵本学会20年史」冊子を発行

◎他学会との連携

日本児童文学学会、イギリス児童文学学会と連携し、第20回絵本学会大会でのラウンドテーブルAを三学会連携で開催

◎入退会者(陶山事務局長)

入会者：30名 退会者：13名 除籍者：27名

7. 2017年度決算・会計監査報告

陶山恵事務局長より、資料「2017年度決算報告書」に基づき会計報告がなされた。

監査担当の香曾我部秀幸氏より、監査の結果、適正と認める旨報告された。

審議の結果2017年度決算報告が承認された。

8. 2018年度活動計画

陶山恵事務局長より、「2018年度活動計画(案)」に基づき下記のような2018年度活動計画が提案され、承認された。

◎第21回絵本学会大会の開催

2018年6月2日(土)、3日(日)

札幌大谷大学短期大学部(札幌市東区)

テーマ：多様化する絵本

◎企画委員会の活動

・絵本フォーラム等の開催

◎紀要編集委員会の活動

・絵本学会研究紀要『絵本学』第21号の刊行

・「2018年絵本研究参考文献目録」「絵本研究参考文献目録(海外)」「2018年絵本原画展・絵本画家展リスト」の依頼および作成

◎機関誌編集委員会の活動

・機関誌『絵本BOOKEND2018』の刊行

◎研究委員会の活動

・研究会の開催

・絵本研究助成

◎広報委員会の活動

・『絵本学会NEWS』の発行 年3回の予定

・ウェブサイトの管理運営

・Facebook(絵本学会サロン)の運営

・メールニュース配信

◎特別委員会の活動

第3回日本絵本研究賞の運営

◎「フォーラム・子どもの未来のために」の活動

◎日本学術会議協力学術研究団体への絵本学会の登録申請を継続

◎他学会との連携

◎絵本学会会則の見直し

9. 2018年度予算について

陶山恵事務局長より、資料「2018年度予算案」に基づき、説明がなされた。

審議の結果、原案通り承認された。

10. その他

・会則9条記載の専門委員会に「特別委員会」を加える案が出され承認された。その際、「特別委員会」という名称設定について説明が求められ、次の回答がなされた。

・「日本絵本研究賞」は発足して間がなく継続性に不確定部分があるためと、「日本絵本研究賞」以外にも役割が生じた場合の委員会として「特別委員会」という名称を設定した。

・2019年第22回絵本学会大会の日時と開催校の紹介がなされた。

2019年6月1日(土)、2日(日)、帝京大学(東京都八王子市)

11.閉会の辞

澤田精一新会長より閉会の辞が述べられた。

2017年度決算報告

2017年4月1日～2018年4月17日

科目	予算額	決算額	増減(予一決)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,900,000	3,919,000	-19,000	
賛助会員	240,000	160,000	80,000	20,000×8口(現在10団体)
正会員	3,600,000	3,715,000	-115,000	8,000×407名(現在約480名)
準会員	60,000	44,000	16,000	準会員13名
②事業収入	200,000	702,700	-502,700	
研究活動事業収入	0	0	0	
フォーラム収入	0	0	0	入場者収入
研究会収入	0	0	0	参加費収入
出版事業収入	200,000	702,700	-502,700	『絵本BOOKEND』売上(2016年度未収分20万含まず)
③雑収入	130,200	124,190	6,010	
受取利息収入	200	10	190	
入会金収入	80,000	62,000	18,000	入会金2,000×31名
雑収入	50,000	62,180	-12,180	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,230,200	4,745,890	-515,690	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,670,000	2,913,550	-243,550	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	2,270,000	2,513,550	-243,550	
消耗品費支出	80,000	65,422	14,578	事務消耗品費
印刷製本費支出	930,000	1,043,590	-113,590	
絵本学会ニュース	260,000	122,040	137,960	絵本学会NEWS 58,59号
研究紀要	550,000	547,668	2,332	『絵本学』19号
会員名簿	20,000	0	20,000	
その他	100,000	373,882	-273,882	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	800,000	878,280	-78,280	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	250,000	390,160	-140,160	理事旅費等(理事会5回/年)
会議費支出	10,000	162	9,838	
広告費支出	140,000	60,000	80,000	
印刷物制作費支出	80,000	0	80,000	
HP更新作業費支出	60,000	60,000	0	
振込手数料	10,000	9,936	64	
雑支出	50,000	66,000	-16,000	発送作業労賃等
②活動費支出	1,450,000	1,303,222	146,778	
大会運営補助金支出	400,000	400,000	0	ポスター等制作費を含む
第20回絵本学会大会補助金	400,000	400,000	0	
専門委員会活動費支出	600,000	529,107	70,893	
企画委員会	200,000	160,227	39,773	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	92,281	7,719	紀要編集等
機関誌編集委員会	80,000	90,440	-10,440	『絵本BOOKEND』編集
研究委員会	100,000	91,799	8,201	研究会主催
広報委員会	120,000	94,360	25,640	『絵本学会ニュース』編集、学会NEWS60号印刷
研究助成費支出	150,000	150,000	0	
20周年事業支出	300,000	224,115	75,885	
日本絵本研究賞	300,000	224,115	75,885	*20周年事業として以後継続
③出版事業支出	1,780,000	1,657,340	122,660	『絵本BOOKEND2017』
編集作業費支出	80,000	80,000	0	
制作費支出	1,700,000	1,577,340	202,660	
事業活動支出合計	5,900,000	5,874,112	25,888	
事業活動収支差額	-1,669,800	-1,128,222	541,578	

科目	予算額	決算額	増減(予一決)	備考	
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
	0	0			
	0	0			
投資活動収入計	0	0			
2. 投資活動支出					
投資活動支出計	0	0	0		
投資活動収支差額	0	0	0		
III 財務活動の部					
1. 財務活動収入					
長期借入金収入	0	0	0		
財務活動収入計	0	0	0		
2. 財務活動支出					
長期借入金返済支出	0	0	0		
財務活動支出計	0	0	0		
財務活動収支差額	0	0	0		
IV 予備費支出					
	200,000	0	200,000		
当期収支差額	-1,869,800	-1,128,222	-741,578		
前期繰越収支差額	3,396,883	3,396,883	0		
次期繰越収支差額	1,527,083	2,268,661	-741,578		
* 日本絵本研究賞の事業は、特別委員会にて、以後継続事業となる					
◎ 絵本学会 財産目録					
				2018年4月17日現在	
	項目	一般会計	20周年積立金	合計	備考
2017/3/31	手元有高	240,803		240,803	
	りそな銀行	0		0	
	ゆうちょ銀行	1,162,760		1,162,760	
	郵便局	500,000	1,500,000	2,000,000	
	振替口座	893,320		893,320	
	未収金	200,000		200,000	
	仮払金	400,000		400,000	
	計	① 3,396,883	1,500,000	4,896,883	
2018/4/17	1年後の増減	② △1,119,838	0	△1,119,838	
	結果	①+② ③ 2,277,045	1,500,000	3,777,045	
③の内訳					
	手元有高	88,372		88,372	
	りそな銀行	0		0	
	ゆうちょ銀行	776,713		776,713	
	郵便局	500,000	1,500,000	2,000,000	
	振替口座	486,320		486,320	
	未収金	25,640		25,640	広報委員会活動費残金
	仮払金	400,000		400,000	
	計	④ 2,277,045	1,500,000	3,777,045	事業活動収入
		収支計算書の次期繰越差額		財産目録の次年度繰越金	細目不明金 ¥8,384

2018年度収支予算(案)

2018年4月1日～2019年3月31日

科目	予算額	前年予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,830,000	3,900,000	-70,000	
賛助会員	180,000	240,000	-60,000	20,000×9口(現在9団体)
正会員	3,600,000	3,600,000	0	8,000×450名(現在約480名)
準会員	50,000	60,000	-10,000	準会員13名
②事業収入	400,000	200,000	-200,000	
研究活動事業収入	0	0	0	
フォーラム収入	0	0	0	入場者収入
研究会収入	0	0	0	参加費収入
出版事業収入	400,000	200,000	-200,000	『絵本BOOKEND』売上
③雑収入	130,100	130,200	-100	
受取利息収入	100	200	-100	
入会金収入	80,000	80,000	0	入会金2,000×40名
雑収入	50,000	50,000	0	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,360,100	4,230,200	129,900	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,630,000	2,670,000	-40,000	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	2,230,000	2,270,000	-40,000	
消耗品費支出	80,000	80,000	0	事務消耗品費
印刷製本費支出	870,000	930,000	-60,000	
絵本学会ニュース	200,000	260,000	-60,000	絵本学会NEWS 61,62,63号
研究紀要	550,000	550,000	0	『絵本学』20号
会員名簿	20,000	20,000	0	
その他	100,000	100,000	0	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	800,000	800,000	0	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	250,000	250,000	0	理事旅費等(理事会4回/年)
会議費支出	10,000	10,000	0	
広告費支出	110,000	140,000	-30,000	
印刷物制作費支出	50,000	80,000	-30,000	
HP更新作業費支出	60,000	60,000	0	
振込手数料	10,000	10,000	0	
雑支出	100,000	50,000	50,000	発送作業労賃等
②活動費支出	1,500,000	1,450,000	50,000	
大会運営補助金支出	400,000	400,000	0	ポスター等制作費を含む
第20回絵本学会大会補助金	400,000	400,000	0	
専門委員会活動費支出	600,000	600,000	0	
企画委員会	200,000	200,000	0	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	100,000	0	紀要編集等
機関誌編集委員会	80,000	80,000	0	『絵本BOOKEND』編集
研究委員会	100,000	100,000	0	研究会主催
広報委員会	120,000	120,000	0	『絵本学会ニュース』編集
研究助成費支出	150,000	150,000	0	
20周年事業支出	350,000	300,000	50,000	
日本絵本研究賞	350,000	300,000	50,000	
③出版事業支出	1,530,000	1,780,000	-250,000	『絵本BOOKEND 2018』
編集作業費支出	30,000	80,000	-50,000	
制作費支出	1,500,000	1,700,000	-200,000	
事業活動支出合計	5,660,000	5,900,000	240,000	
事業活動収支差額	-1,299,900	-1,669,800	369,900	

科目	予算額	決算額	増減(予一決)	備考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
	0	0		
	0	0		
投資活動収入計	0	0		
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	500,000	-500,000	
投資活動収支差額	0	-500,000	500,000	
III 財務活動の部				
1. 財務活動収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
長期借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
	200,000	200,000	0	
当期収支差額	-1,499,900	-1,869,800	369,900	
前期繰越収支差額	3,396,883	3,396,883	0	
次期繰越収支差額	-1,896,983	1,527,083	369,900	

第3回日本絵本研究賞についてのお知らせ

絵本についての論文・評論・報告を募集します。

<趣旨>

1997年に創立された絵本学会は、創立20周年を迎えました。これを記念して、さらなる絵本研究や評論活動の活性化を図るため、絵本学会、公益社団法人全国学校図書館協議会、毎日新聞社は、「日本絵本研究賞」を創設しました。絵本研究に関係される皆様の優れた論文や評論、報告(実践、調査研究)を募集いたします。たくさんのお応募をお待ちしています。

<主催>

絵本学会、公益社団法人全国学校図書館協議会、毎日新聞社

<論文・評論の募集応募要項>

・論文等の対象期間

2017年10月1日(日)～2018年9月30日(日)の期間内に発表された、絵本についての研究論文や評論、報告(実践、調査研究)。

＊ブログ、SNS、個人的な趣の強い発表などは除く。

・応募期間受付

2018年10月1日(月)～10月13日(土)

・応募宛先、問い合わせ先

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5

刈谷市美術館内 絵本学会事務局

FAX:0566-26-0511

E-mail: office@ehongakkai.com

＊募集要項・応募方法は絵本学会ウェブサイトでも公開しています。

http://www.ehongakkai.com/info/2018_03.html

<応募資格>

・絵本研究に関する個人。

・共同研究の場合は代表者1名による応募に限る。

<応募方法・応募規定>

・原稿は、日本語で、4,000字から20,000字程度のものとする。

・表紙は別紙とし、絵本学会ウェブサイトから所定の書式をダウンロードし、添付すること。

・提出する論文・評論・報告(実践、調査研究)の原稿は紙テキスト版とデジタル版(ワード版)の両方を提出すること(デジタル版の提出先: office@ehongakkai.com)

・掲載誌・出版社等名、内容要旨(400字以内)、年齢、所属機関または肩書、連絡先を明記すること。掲載誌(書籍等)1冊および抜き刷り3部(コピー可)を提出すること。

＊提出後の内容変更や加筆修正は認めません。

＊自薦・他薦を問いません。

＊ご推薦いただく場合には、絵本学会ウェブサイトより所定の書式をダウンロードし、応募原稿に添付してください。

＊その他

・メールによる問い合わせの際には、件名に【日本絵本研究賞】と但し書きをしてください。

・応募に際しては送付先を明記した封筒に「日本絵本研究賞応募」と朱書きしてください。

・引用物の著作権にかかわる問題は応募者の責任とします。

・輸送中の紛失、破損等の事故に関して絵本学会は責任を負いません。

<応募作品の返却>

応募原稿等は返却しません。

<入賞発表>

2019年3月下旬全国学校図書館協議会発行の『学校図書館』誌上および『学校図書館速報版』紙上、毎日新聞紙面、絵本学会ウェブサイト(直近で発行予定の『絵本学会NEWS』、機関誌『絵本BOOKEND』)にも掲載)

<表彰>

「日本絵本研究賞」

「日本絵本研究賞 奨励賞」

表彰式は2019年3月下旬(予定)に東京都内において挙行。

<賞及び賞金>

日本絵本研究賞 5万円

日本絵本研究賞 奨励賞 2万円

<著作権の帰属ならびに受賞作品の利用>

受賞作品の著作権は応募者に帰属します。ただし絵本学会、公益社団法人全国学校図書館協議会、毎日新聞社は紙面(誌面)掲載の権利を有し、その場合著作権料等の支払いはいりません。絵本学会は直近で発行予定の『絵本学会NEWS』、機関誌『絵本BOOKEND』に掲載します。

<選考委員>

今井良朗

(武蔵野美術大学名誉教授、元絵本学会会長)

川端 誠

(絵本作家)

佐々木宏子

(鳴門教育大学名誉教授、元絵本学会会長)

村中李衣

(ノートルダム清心女子大学教授)

生田美秋

(富山県立高志の国文学館事業部長、絵本学会理事、日本絵本研究賞特別委員会委員長)

設楽敬一

(公益社団法人全国学校図書館協議会 理事長)

小島明日奈

(毎日新聞社執行役員 教育事業担当)

研究委員会からのお知らせ

◎2018年度研究助成応募申請要項について

2018年度研究助成についてお知らせいたします。揮って、学会員皆様の応募をお待ちしております。応募申請の手順等は以下の通りです。

①応募資格

2018年度年会費納入済みの会員であること。プロジェクト研究の場合は、全員が会員とする。

②申請書

「絵本学会2018年度研究助成申請書」に必要事項を記入の上、下記の方法のいずれかで申請書の提出をお願いします。申請書は7月下旬発送の学会関連発行物に同封いたしました。なお、「絵本学会2018年度研究助成申請書」の書式データをご希望の方は、下記事務局アドレスまでご連絡ください。

③募集の件数および助成金額

合計3件(1件につき5万円の補助)

④応募の締め切り

2018年8月15日(水)必着

⑤結果の通知

2018年9月末日までに研究委員会より研究代表者宛に通知します。

⑥研究成果報告書の提出について

研究助成の採択を得た場合、2019年3月末日までに研究成果の報告書をA4サイズ1枚程度(書式、字数は自由)にまとめて提出してください。提出先は「申請書の提出先」と同様とします。なお、研究成果は、絵本学会大会や『絵本学』での公開を望みます。

【提出方法】

事務局宛メール送付先: office@ehongakkai.com

＊メール提出の場合にはメールタイトルに「研究助成申込」と記載のこと

郵送の場合:

住所: 〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5

刈谷市美術館内 絵本学会事務局

＊上記事務局宛に郵送の場合は締切厳守、封書の表に「研究助成申請書類在中」と朱書きのこと。また事前にメールにて「郵送」の旨の連絡をお願いします。

◎絵本セミナー開催のお知らせ

今秋、奈良県立美術館で開催される「プラティスラヴァ世界絵本原画展－BIBで出会う絵本のいま」開催中に、絵本セミナーを開催いたします。ぜひご参加ください。

絵本セミナー「BIBと絵本制作の舞台裏」

共 催：奈良県立美術館

日 時：11月18日(日)13:00～16:30

会 場：奈良県立美術館レクチャールーム

講 師：こしだミカ(絵本作家)、筒井大介(絵本編集者)ほか

会 費：500円

定 員：80名(当日先着順)

10月末日まで絵本学会会員先行予約(先着40名):

先行予約申込先: 研究委員会 ehongken2018@gmail.com

名前・住所・電話番号・絵本セミナー参加希望を明記のこと

詳細はチラシ、絵本学会HPをご覧ください。

紀要編集委員会からのお知らせ

◎絵本学会紀要『絵本学』第21号投稿論文募集について

前号でお知らせしたとおり、絵本学会紀要『絵本学』第21号への投稿論文を募集します。前号をご参照のうえ、必ず投稿規定および執筆要項にしたがって作成してください。執筆要項は絵本学会ウェブサイト (<http://www.ehongakkai.com>) からダウンロードが可能です。応募原稿は絵本学会事務局宛てに郵送でお送りください。

応募締切は2018年9月30日(必着)です。

なお、投稿に際しては、下記の点に特にご注意ください。

- ①文章量が守られているか
- ②二重投稿・盗用・剽窃に該当しないか
- ③推敲を重ねた完成原稿であるか(著者校正は最小限度とします)

絵本学会研究紀要『絵本学』執筆要項 (2017年7月15日改訂)

執筆はこの要項に準拠すること

【基本事項】

- ◎ 使用言語：日本語
- ◎ 原稿体裁：投稿時には、表紙+抄録(和文と英文)+本文から構成する。
必ず完成原稿であること。提出後の内容変更や加筆修正は認められない。原則として、ワープロによる横書き。
- ◎ 表紙：原稿種類(研究論文・研究ノート・論説・報告のいずれかを記載)、論文タイトル(和文と英文)、執筆者氏名(ローマ字を併記)、所属または職名、専門分野、キーワード3語を明記のこと。
- ◎ 抄録分量：和文要旨を、横25文字×縦16行(文字数にして400字以内)で記述。英文要旨は、単語数にして約200語程度にして記述(掲載決定後の提出で可)。
- ◎ 本文分量：原則として本文1篇につき、註・引用文献・参考文献を含めて、1頁に横23字×縦44行を2段組にして、研究論文4～8頁(文字数にして7,000字～15,000字)、研究ノートは4～6頁(文字数にして7,000字～11,000字)、論説と報告は4頁(文字数にして7,000字)以内。図・写真・表などの図版は別。
*研究論文、研究ノート、論説、報告のいずれも、掲載決定後の原稿では、論文名・執筆者名・所属または職名・専門分野・抄録に最初の半頁を使用。具体的には最近の紀要を参照のこと。
- ◎ 図版(図・表・写真など)：モノクロを原則とする。カラー図版の場合、経費は投稿者の自己負担とする。編集・印刷の都合で、図版は本文の後に頁を改めて配置する(本文中への挿入はしない)。使用する図版数は特に限定しないが、研究論文・研究ノート・論説・報告ともに本誌4頁以内に納まるように、原則として投稿者がレイアウトする。
- ◎ 著者校正：原則1回のみ。文字変換ミス等の修正など最低限の訂正のみとする。
- ◎ 進呈：執筆者には、掲載誌5部を無料進呈する。
- ◎ 抜刷：掲載が決定した段階で希望部数を受け付ける。30部、50部、100部単位で、費用(実費)は執筆者が負担する。
- ◎ 提出物：投稿時と掲載決定後に分ける。
 - 1)投稿時には、プリント原稿4部を提出(図版原稿を含む。コピー可)
*図版原稿(使用する場合は)、原則として、執筆者が、番号・キャプションをつけ、レイアウトして提出する。
 - 2)掲載決定後に、プリント原稿4部とともに、テキスト原稿データと図版原稿データをCD、DVD、フラッシュメモリなどの記憶媒体に入れて提出する。図版原稿データは、PDFファイル形式でも保存し、そのデータも添えること。各ファイルに、内容がわかるファイル名を付け、拡張子によりファイル形式がわかるようにする。
*ワープロソフトは、Wordを原則とする。
*図版原稿に写真などの画像がある場合は、原則として300dpi以上の高解像度のデータも別に提出のこと。

*図版キャプションも、別原稿として提出すること。

*記憶媒体には、ラベルなどにより、論文名、氏名、使用ソフト名&バージョンを記す。別紙での提出可。

【論文表記・表示】

- ◎ 文章：原則として常用漢字を使用し、仮名づかいは現代かなづかいと新送り仮名に従い、常体とする。ただし、特別の事由があるときは、この限りではない。
- ◎ 句読点：「、」および「。」とする。
- ◎ 符号：論文名あるいは引用文の表示には「」を使用し、文中における書名、誌(紙)名の表示に『』を使用する。
- ◎ 文字：数字およびローマ字は、半角文字を使用する。
- ◎ 固有名詞(特に外国の場合)：文中初出の人名は、必要に応じてフルネームをカナ書きし、その後に()で、原綴りを付記する(ただし、ミドルネームの頭文字は原語のままとする)。官公庁、研究機関については、原綴りを補記する。
- ◎ 見出し：本文中の見出し(章、節、項など)は左揃えを原則とする。
- ◎ 註・引用文献：註は該当用語または該当センテンスの右肩に(註○)のように番号表記し、本文後ろに一括して番号順に記載する。他の文献などから引用する場合は、出典を明示するものとする。
*引用は公正な慣行に合致し、かつ引用の目的上正当な範囲内に限ること。
- ◎ 参考文献：註・引用文献の後に一括して記載する。註・引用文献と同じものがある場合には、参考文献に記載しない。
- ◎ 図版(図・写真・表など)：通し番号をつけ、本文の後に頁を改めて配置する。
*本文中で図版の説明をする際、対応する図版を明示する。示し方は、図(図、写真など)と表を区分して、(図○)、(表○)のように表し、該当用語または該当センテンス末に記載する。
*図版には必要に応じてキャプションを記す。図版の出典、クレジットなどを示す必要のある場合には、キャプションの末尾に記す。
*写真等の著作権上の掲載許可については、投稿者自身が自らの責任において事前に適正に行い、その旨を記載すること。

【書誌記載法】

原則として、以下の内容を、以下の順序で記載する。初版以外の図書には版刷数を記す。

- ◎ 図書：著者名「論文名または章立てなどの見出し」『書名』(シリーズ名などがあれば記載) ○版○刷、出版社、発行年月、頁
- ◎ 紀要・雑誌・新聞：著者名「記事(論文)名」『掲載誌名』 ○巻○号、発行年月日、頁
- ◎ 翻訳書名・記事：原著者名、翻訳者名「記事(論文)名」または『書名』(シリーズ名などがあれば記載) ○版○刷、出版社、発行年月、頁

付記

- *提出された原稿は、原則として返却しない。
- *図版原稿などで返却が必要な場合は、事前に申し出ること。
- *字句の表記、図版掲載など、論文掲載方法について編集委員会から相談する場合がある。
- *英文タイトルと英文要旨については、できるだけネイティブチェックを済ませること。
- *この規定に記されていない事項については、編集委員会が判断する。

以上

関連学会からのお知らせ

◎第29回基礎造形学会大会開催のお知らせ

絵本学会は他学会との交流も深めています。研究に共通点のある第29回基礎造形学会大会が埼玉越谷の文教大学で行われますので、ふるってご参加ください。

大会テーマ：「基礎造形と表現の多様化」

会期：2018年9月8日(土)・9日(日)
大会会場：文教大学越谷キャンパス / 北越谷駅下車
(〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337)
受付：12号館1階ホール
作品展・作品発表：2018年9月8日(土)・9日(日)
展示会場：12号館1階ホール・美術棟
講演・シンポジウム会場：12号館12101教室
懇親会場：越谷キャンパス食堂2階

◆大会スケジュール

第1日目：2018年9月8日(土)
12:30～13:00 受付
13:00～13:25 大会開会式
13:30～14:30 基調講演「メディアアートの表現」岩井俊雄氏
14:50～16:00 シンポジウム「絵本の表現」
岩井俊雄氏、中川素子氏、和田直人氏
16:20～17:20 ギャラリートーク
18:00～20:00 懇親会

第2日目：2018年9月9日(日)
口頭発表など

◆基調講演：「メディアアートの表現」

講師：岩井俊雄(いわいとしお)

1962年愛知県生まれ。筑波大学芸術専門学群卒、同大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形コース修了。アメリカ・ドイツの研究機関に客員芸術家として滞り、東京大学先端科学技術研究センター特任教授。テレビ番組『ウゴウゴルーガ』、三鷹の森ジブリ美術館の映像展示『トトロびょんびょん』『上昇海流』や、ニンテンドーDSのアートソフト『エレクトロプランクトン』など。坂本龍一氏とのパフォーマンスでは、オーストリア・リンツ市にて、アルスエレクトロニカ・グランプリを受賞。ヤマハと共同開発した音と光を奏でる楽器『TENORI-ON』は、ニューヨーク近代美術館(MOMA)に永久保存。現代日本美術展大賞など数多く受賞。娘との手作りおもちゃをきっかけに、2006年より絵本作家としての活動を開始。2008年刊行の『100かいだてのいえ』は、子どもたちに大人気となり、『ちか100かいだてのいえ』、『うみの100かいだてのいえ』『そらの100かいだてのいえ』などシリーズ累計発行部数280万部を数える。『いわいさんちへようこそ!』、『いわいさんちのリベックくん』(以上、紀伊國屋書店)、『光のえんぴつ、時間のねんど ～図工とメディアをつなぐ特別授業』(美術出版社)、『アイデアはどこからやっ

てくる?』(河出書房新社)など絵本を通して、子どもや親子にものづくりの楽しさを伝えるワークショップを多数開催。

◆シンポジウム:「絵本の表現」

絵本表現は、形、色、素材、テクスチャー、光、運動、製本技術などから語ることができ、視覚言語や形態の機構学的アプローチを対象とした基礎造形学から検証できる分野と言える。シンポジウムでは、岩井俊雄氏が自作の縦開き本『100かいだての家』シリーズの表現性について、中川素子氏がスポーツをテーマとしたスタシスやスージー・リーの新しい表現について紹介する。和田直人氏は基礎造形学の立場から光や鏡面を生かした多様な絵本群について紹介し、絵本表現の可能性についてシンポジスト間で話し合う予定である。

パネリスト:

岩井俊雄氏(経歴は上記)

中川素子氏

1942年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。文教大学名誉教授。1999年彩の国さいたまアーティスト・イン・レジデンス実行委員会会長、絵本学会会長(2009～2012)、著書に『絵本はアート』(教育出版センター 日本児童文学学会奨励賞1992)、『本の美術誌－聖書からマルチメディアまで』(工作舎)、『絵本は小さな美術館－形と色を楽しむ絵本47』(平凡社)、スタシス・エイドリゲーヴィチウス絵による『アウストラさんのみつあみ道』(石風社)、共編書に『ブックアートの世界－絵本からインスタレーションまで』(水声社)、編集代表『絵本の事典』(朝倉書店)他。

和田直人氏

筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻構成修了。山形大学教授を経て、現在、日本女子大学教授。絵本学会理事(2016～2018)、モダンアート協会会員、基礎造形学会会員。共著に『写真を使って絵本をつくらう!』(あすなろ書房)、『にほんのかたちを読む事典』(工作舎)、『アートとデザインの構成学』(朝倉書店)他、編著に『手作り絵本SMILE』(朝倉書店)。

◆大会参加費

一般の方は、懇親会費を含めた大会参加費が6,000円となりますが、基調講演・シンポジウムのみの参加ですと1,000円となります。なお、越谷市在住、通学、勤務者は無料。詳しくは下記まで、お問い合わせ下さい。

◆問い合わせ先

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337 文教大学越谷キャンパス
教育学部美術研究室 久保村里正(クボムラリセイ)
mail:kisosaitama@gmail.com
TEL:048-974-8811 / FAX:048-974-8943

絵本学会理事会報告

◎2017年度絵本学会第5回理事会 議事録

日時：2018年3月25日(日)14:00～17:00
会場：東京工芸大学中野キャンパス 2号館3階アトリエ2
出席：松本猛(会長) 陶山恵(事務局長) 生田美秋 澤田精一
佐藤博一 永田桂子 松本育子 村上康成 和田直人
杉浦篤子／横田由紀子(第21回大会の審議事項のみ)
委任：本庄美千代

議事次第

◆報告事項

1.会長より

松本会長より、第5回理事会の開催挨拶があった。

2.前回2017年度絵本学会第4回理事会議事録の確認

承認された。

3.各委員会報告

- 1) 企画委員会
特になし。
- 2) 紀要編集委員会
紀要『絵本学』20号発行について、2018年6月中に刊行予定であるとの進捗状況が報告された。
- 3) 機関誌編集委員会
『絵本BOOKEND2017』発行について、2018年6月中に刊行予定であるとの進捗状況が報告された。
- 4) 研究委員会
特になし。
- 5) 広報委員会
- 6) 特別委員会(日本絵本研究賞)
第2回日本絵本研究賞について、3月26日(月)に「第23回日本絵本賞」表彰式と同時開催で表彰式が開催される予定であることが報告された。

4.事務局より

特になし。

5.「フォーラム・子どもたちの未来のために」について

2018年3月9日(金)に学習会「戦時下の紙芝居」(講師:酒井京子)が開催されたことが報告された。

6.その他

特になし。

◆審議事項

1.入退会者について(12月18日～3月25日)

入会者：内田早穂子、大井むつみ、チョウ・ジョテイ 計3名

退会者：佐藤みづき、田中みどり、坂本みきこ、引原直美、松里雪子、川内五十子(ご逝去)、橋爪千恵子 計7名
2017年除籍者 計27名

2.事務局より

第20回絵本学会大会(2017年度)について大会報告に不足があることが前回理事会会議時の審議より改善されていないことが報告され、状況の是正について諮られた。大会印の返却は完了したが、収支決算報告書の提出には不足が残っている。大会開催報告については、学会ニュースに掲載された原稿を以て完了とすることで良いのではないかとの意見が佐藤理事より発言され、承認された。

3.各委員会より

- 1) 企画委員会
- 2) 紀要編集委員会
- 3) 機関誌編集委員会
- 4) 研究委員会
- 5) 広報委員会
- 6) 特別委員会(日本絵本研究賞)
第3回日本絵本研究賞について、継続とする審議が諮られ承認された。次期特別委員会にて早急に対応が求められる審査委員の選出について確認された。

4.第21回絵本学会大会(2018年度)について

杉浦大会実行委員長、横田実行委員よりタイムテーブル等の詳細、大会開催案内の作成など進捗状況が報告され、承認された。

5.第22回絵本学会大会(2019年度)について

帝京大学での開催に向け、辻政博会員を中心に調整が進められていることが報告され、承認された。

6.絵本学会20周年記念事業について

・出版事業について
継続審議となった。

7.次期役員選挙について

次期役員選挙の開票が、3月26日(月)に選挙管理委員会により行われることが報告され、承認された。

8.日本学術会議協力学術研究団体への登録について

継続審議となった。

9.その他

新役員への引き継ぎについて、各委員会ごとに書面にて申し送り事項をまとめ、現委員長より次期委員長へ手渡すことによって明確な作業の移行を図ることが審議され、承認された。

◎2017年度絵本学会第6回理事会 議事録

日時：2018年6月2日(土)10:00～11:00

会場：札幌大谷大学短期大学部

出席：松本猛(会長) 陶山恵(事務局長) 生田美秋 佐藤博一
澤田精一 永田桂子 松本育子 和田直人
杉浦篤子(第21回大会の審議事項のみ)

委任：本庄美千代

議事次第

◆報告事項

1. 会長より

松本会長より、開会の挨拶があった。

2. 前回2017年度第5回絵本学会理事会議事録の確認

承認された。

3. 各委員会報告

1) 企画委員会

特になし。

2) 紀要編集委員会

紀要『絵本学』20号発行について5月30日に発送・納品されたことが報告された。

3) 機関誌編集委員会

特になし。

4) 研究委員会

特になし。

5) 広報委員会

特になし。

6) 特別委員会

特になし。

4. 事務局より

特になし。

5. 「フォーラム・子どもたちの未来のために」について

特になし。

6. その他

特になし。

◆審議事項

1. 入退会者について(3月26日～6月1日)

入会者：藤井直美 計1名

退会者：なし

除籍者(会費未納による除籍)：瀬戸口信悟、東敬祐、阿部弘子、一色令子、井上千裕、大石都希子、大川洋子、大坪恵理子、大西雅子、大森敦子、岡村絵美、小倉未那子、佐藤文郎、鈴木美樹子、高瀬陽子、中村綾、朴熙周、万谷亮子、溝渕優、吉田屋幸子、一戸美穂、駒木根剛、澤田摩耶、谷出千代子、ヒーロー伊藤、秋元久美子、稲葉征三郎 計27名

2. 事務局より

絵本学会第21回総会次第について審議され、承認された。

3. 各委員会より

1) 企画委員会

特になし。

2) 紀要編集委員会

特になし。

3) 機関誌編集委員会

特になし。

4) 研究委員会

特になし。

5) 広報委員会

特になし。

6) 特別委員会

特になし。

4. 第21回絵本学会大会(2018年度)について

大会実行委員会より、大会参加会員数および総会委任状数の報告があり、大会開催概要の確認とともに承認された。

5. 第22回絵本学会大会(2019年度)について

帝京大学八王子キャンパスにて2019年6月1日(土)、2日(日)に開催予定であることが報告され、承認された。

6. 絵本学会20周年記念事業について

継続審議となった。

7. 新役員体制について

役員選挙結果および指名理事3名について報告され、審議されたのち承認された。

8. 日本学術会議協力学術研究団体への登録について

会員名簿作成と同時に行った会員情報をもとに申請を行い、現在審査を受けていることが報告され、継続審議となった。

9. その他

特になし。

◎2018年度 絵本学会第1回理事会新旧合同理事会 議事録

日時：2018年6月2日(土)11:00～12:00

会場：札幌大谷大学短期大学部

出席：松本猛(会長) 陶山恵(事務局長) 生田美秋 佐藤博一
澤田精一 永田桂子 松本育子 和田直人 今田由香
甲木善久 佐々木由美子 鈴木穂波 長野麻子 藤本朝巳

途中参加：丸尾美保

委任：本庄美千代

議事次第

◆審議事項

1. 会長より

今総会に会則変更として審議をはかる、日本絵本研究賞の運営に携わる特別委員会についての説明があった。事務局からも活動経緯、予算の組立て、委員会の名称等についての説明があった。

2. 各委員会引き継ぎについて

1) 企画委員会

2) 紀要編集委員会

3) 機関誌編集委員会

4) 研究委員会

5) 広報委員会

6) 特別委員会

各委員会の引き継ぎについては、各委員長に代わり、事務局長から説明があった。現理事会としては、現各委員長が引き継ぎ書を作成し、書面にて引き継ぎを行うことが伝えられた。

3. 事務局より

新理事会へ引き継ぐ課題として、下記が挙げられた。

- ・特別委員会の設置が承認された場合、すみやかに委員構成に着手し、第3回日本絵本研究賞の応募活動に入る必要があること。
- ・日本学術会議協力学術研究団体への登録を担当する理事を早急に決定する必要があること。担当者は、現担当者の佐藤理事から引き継ぎを受けること。
- ・会則ならびに各委員会規程等の見直し、旅費規程の制定を行う必要があること。

4. その他

新役員選挙がやり直された経緯について、以下が確認された。

- ・次期役員選挙の候補者名簿を作成する段階で、その進め方に対する(会長、事務局長の)認識に誤りがあった。
- ・結果的に選挙のやり直しを行わざるを得なかったことに対しては、旧理事会に非がある。
- ・選挙管理委員会においては、開票作業において公正を欠くことなく、その責務が全うされた。
- ・今後、同じ過ちが生じないよう、役員選出規則の見直しを含めた選挙運営の再検討を新理事会で行うこととなった。

お知らせ

◎出版のお知らせ

『ジャータカものがたり かしこいのは だあれ?』

中川素子 再話、パーサンスレン・ボロルマー 絵

小学館 2018年9月10日出版

*『あわてんぼううさぎ』に続くジャータカ物語の2冊目です。

事務局の移転にあたって

絵本学会事務局長 松本育子

このたび、絵本学会事務局長となりました(それも立候補してしまいました…)松本です。事務局をお引き受けしてから、その責任の重さを実感しています。澤田会長はじめ陶山前事務局長、理事の皆様を支えていただき、なんとかこれからの3年間を務めさせていただきたいと思っております。

日頃は学芸員として、展覧会業務に追われていますので、行き届かない点が多々あるかと思っております。現事務局はスーパー女子アルバイトにお手伝いしてもらいながら運営しております。基本的に週1回、毎週木曜日に学会関係事務を行っております。会員の皆様にもご迷惑をおかけいたしますが、精一杯頑張りますので、どうぞご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

絵本学会事務局

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5 刈谷市美術館内

Tel.0566-23-1636

Fax.0566-26-0511

HP: <http://www.ehongakkai.com>

e-mail: office@ehongakkai.com

■新役員一覧

会 長: 澤田精一

会長代理: 藤本朝巳

事務局長: 松本育子

理 事: 生田美秋

今田由香(企画委員長)

甲木善久

佐々木由美子(広報委員長)

鈴木穂波(紀要編集委員長)

長野麻子

藤本朝巳(機関誌編集委員長)

松本育子

丸尾美保(研究委員長)

監 事: 香曾我部秀幸

千田 篤

編集後記

・新体制になって初めてのNEWSです。まだまだ不慣れで右往左往しておりますが、広報メンバーで協力しながら、会員の皆様に必要な情報をお届けしたいと思っております。これから新たなコーナーも設けていきたいと思っております。どうぞご期待ください。(佐々木由美子)

・まずは、年3回決まった月に刊行する。会の動向を伝える情報を提供する。できれば、捨てずにとっておきたくなる誌面にしたい。人の温もりのある誌面でありたい。本当は、会員の意見交換の場であるべき。絵本と絵本研究に貢献する誌面であるべき。ともあれ、「まずは」から一歩ずつ。(生田美秋)

・この度、新たに編集委員となりました。会員の皆様にとって有益な情報を読んでいて楽しい形でお届けできるよう励みたいと思っております。ご意見ご要望などございましたら是非とも広報委員会までお知らせ下さい!(甲木善久)

・学生時代から読み親しんできたNEWSの編集に携わることになりました。絵本学会の魅力や楽しさをお届けするお手伝いのできたらいいなと思っております。よろしく願いいたします。(宮崎詞美)